



日本キリスト教保育所同盟 (題字 前理事長・木村 量好)

THE ASSOCIATION OF CHRISTIAN NURSERIES IN JAPAN

事務局 かがわ子ども・子育て支援センター 神愛館 〒762-0056 香川県坂出市中央町8番58号
発行責任者 理事長 新井 純

日本キリスト教保育所同盟新任保育士研修会2016へのおさそい

同志社教会 主任牧師 望月修治

毎年5月に行われる日本キリスト教保育所同盟「新任保育士研修会」で「聖書のお話」というプログラムを担当させていただいている。キリスト教保育を行っている保育園に4月から新任で勤務された保育士の皆さんの中には、就職先の保育園ではじめてキリスト教や聖書に触れるという方も少なからずおられると思います。「キリスト教保育って何?」と戸惑いを感じておられることはありますか。はじめて聖書にふれて、あるいははじめてキリスト教にふれて戸惑わない方がむしろ不思議なのです。そんな皆さんに、絵本を介して聖書の世界の面白さや楽しさを紹介できたらいいなと思っています。

「キリスト教保育」って何でしょうか。キリスト教保育にしかない体操やお絵描きや粘土遊びや園外保育があるということなのでしょうか。そのようなものはありません。キリスト教の理念、聖書の人間観にもとづいた人間形成をめざす保育、いのちの根っこを育てる保育が「キリスト教保育」の基本です。心を育てる、見えない所を大切にするのです。いのちの根っこを育てる保育というのは派手な保育、目立つ保育ではありません。人生の土台をつくる保育です。土台は上に建物が建てば見えなくなります。けれどもその人の一生を支えるのです。どんな土台を作ったのか、その価値が分かるのは後になってからです。その人生の土台を作るために、人間の一生の中で幼児期がどれだけ大切で、掛け替えのない時期であるか、そのことを保育に関わる者は忘れてはいけないのだと思います。またその土台づくりに関わる誇りをもちたいと思うのです。

では、キリスト教保育の理念の源である聖書にはどんなことが書いてあるのでしょうか。聖書ってどのように読み始めたらよいのでしょうか。「聖書は神の絵本である」と語った人がいます。聖書というのは神の働きについて文字という絵の具を使って書かれた絵本のようなものだということです。聖書は絵本を読む感覚で読んでみるとその面白さが分かり始めます。私たちは絵本を読むとき、動物たちが語ったり、人間をこらしめたり、魔法にかけられたりする世界に素直に入り込んで、楽しんで読んでいきます。ところが聖書と聞くとたちまち科学者になってしまわないでしょうか。天地創造や奇跡物語など荒唐無稽な話だと思ってしまいます。

絵本を読む感覚で聖書を読むと科学の視点とは全く違った面白さが見えてきます。それがいのちの根っこづくりには欠かせないのでした。いろいろな絵本を紹介しながら、聖書の物語と深くつながっていく世界をお話したいと思っています。聖書には「生きること」についてのたくさんの「なるほど」が満ちています。その気づきは私たちの生き方を変えてくれるはずです。こどもたちへの視点が転換されいく体験の扉にご案内できたらと思っています。

是非、新任保育士研修会に来てみて下さい。

「もういっぱいやからむり！」

園田愛児園 保育士 宮 田 麻里奈

《背景》

3歳児のAちゃんは、記憶力がよく、時々大人びた口調で話すなど“頭は良い”が、コミュニケーションが少し苦手なように感じる。ひとりで遊ぶことが多く、黄色が好きなのか、玩具の色を選ぶときは、同じ色のものを集めて遊んでいる。担任とのかかわりは多い。

《エピソード》

保育室で自由遊びをしている時のこと。Aちゃんから「せんせい、つみきでたかいのつくろ」と、小さな積み木を重ねて塔にしていく遊びに誘われた。2人で積み木を積み始めると、2人の友達がやってきて「いーれーーー」と私に話しかけてきた。私はAちゃんと2人が一緒に遊ぶ機会になればと思い「Aちゃんがつくってるやつだから、Aちゃんに聞いてみてくれる？」と返した。2人がAちゃんに「いーれーーー」と言うとAちゃんは「いいよー」と2人を受け入れた。私は“良かった”と思い続けて遊んでいると、今度はBくんとCちゃんが同じく「いーれーーー」とやってきた。私は先ほどと同じように返事をし、Aちゃんの反応を見守った。するとAちゃんは「もういっぱいやからむり！」と断った。“今度はあかんかったかー”と思い、そのまま様子を見ていると、Bくんはがっかりした表情を浮かべ、Cちゃんはしくしくと泣き始めた。Aちゃんはというと、そんな2人は見向きもせず、遊びを再開している。私はAちゃんに「BくんとCちゃん、Aちゃんと一緒に遊びたいみたいだよ」と声をかけてみた。しかし、Aちゃんは「そんなにいっぱいやったらむり！」の一点張り。Aちゃんは“大勢だったら狭いし、壊れたら嫌だ”と感じているのだと私は思ったので、BくんとCちゃんに「じゃあ、もういっこ、つくろうか」と提案し、隣で新しく塔を作り始めることにした。その姿を見たAちゃんは突然「いやや、いやや」と泣き出した。落ち着いて話をするため、Aちゃんを一人連れ出し「何がいやだったの？」と尋ねると、Aちゃんは「おしろはいっこだけ」「BくんとCちゃんはあかんかった」と話してくれた。「Aちゃんはいっぱいだったら狭いと思ったんだよね？壊れるかもしれないもんね。ゆっくりつくりたいよね。でも、BくんとCちゃんもおしろつくりたいから、隣でつくらせてあげてほしいな」と言ったが、「いやや、いやや」と泣き続けた。Aちゃんの「大勢では壊れてしまうから嫌だ」という思いと、BくんとCちゃんの遊びたい思いを考えて「いっこにするなら、BくんとCちゃんも入れてあげて、みんなでつくろう。それがいやならAちゃんの方でつくってね」と声をかけ、しばらく見守ることにした。しばらく

くするとAちゃんは戻ってきて、一人で自分の方の塔を作り始めた。

《考 察》

結果的に、一人で塔を作り始めるという一人遊びに戻してしまったAちゃんについて、気になっていたのでエピソードとして書いてみた。Aちゃんの言った言葉や態度などには、どんな気持ちが込められているのか改めて考えてみると、Aちゃんが“BくんとCちゃんをいれてあげない”と言ったのは、“狭くて塔が壊れてしまうことが嫌だからだ”と私がかってに決めつけていたことに気が付いた。そして、Aちゃんにとっては、“私と遊ぶ”ことよりも“友達との遊びの中でコミュニケーションを広げていくこと”が一番大切だと思っていたことにも気づいた。Aちゃんにとって“この時”一番大切だったのは、“私と一緒に遊びたい”という気持ちだったのだろうと思う。それは、Aちゃんの「甘えたい」という気持ちであり、「寂しさ」や「不安」の表れだったのではないかと感じた。それが「おしろはいっこだけ」という言葉で表現されていたり、一人遊びを選ぶ原因になっていたのではないだろうか。

Aちゃんの感じている「不安さ」や「寂しさ」に寄り添い、本当のAちゃんの気持ちを見つけていけるよう、見方を変えてかかわっていこうと思った。

聖書： また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。

(マタイによる福音書 5章15節)

このエピソード記述は、2016年1月19～20日にコミュニティ嵯峨野を会場にして開かれた、日本キリスト教保育所同盟のスキルアップ研修の中で、参加者の一人が書いたものです。

このスキルアップ研修では、2015年度の総会で決議した「日本キリスト教保育所同盟ミッションステートメント」についての学び、その後にエピソード記述の書き方や深め方についても学びました。エピソード記述は、私たちが実践している保育の「可視化」であり、「振り返り」ともなることから、保育の「質を向上させる」手法の一つです。そこで、研修中に書かれ、ご本人とファシリテーター、そして研修参加者とで深め合ったこのエピソードから与えられた「気づき」を分かち合うために、エピソードを書いたご本人の了解を得て「山びこ」に掲載することにしました。小さな気づきを共に分かち合う中で、保育を、子どもたちを、周りの人たちを見つめる目が豊かにされていくことを願っています。

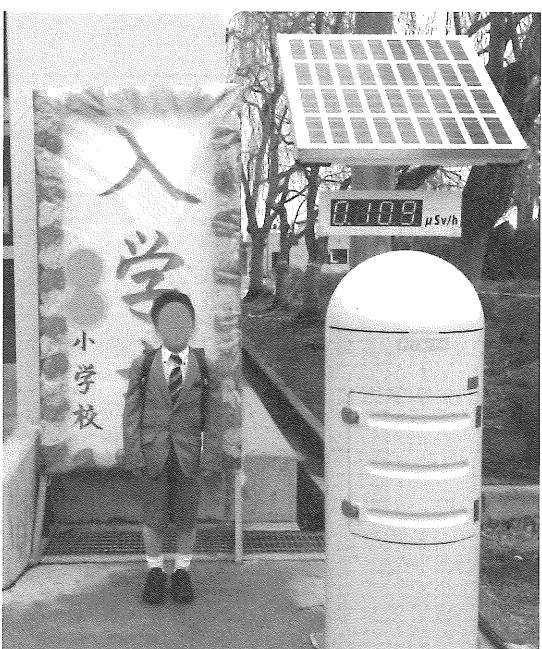
次号以降の「山びこ」には、このスキルアップ研修で生まれた「エピソード記述」を連載していきます。お楽しみに！

消えていく空間放射能測定器

会津放射能情報センター 代表 片 岡 輝 美

放射能は目に見えないので、東京電力福島第一原子力発電所核事故後、街の風景を変えたものがあります。正式名称「環境放射能測定器リアルタイム線量計」、通常「モニタリングポスト」と呼ばれている一基100万円の機器です。事故後、県内の学校や幼稚園、公園や通り、役所の公的な施設前など約3000基が立てられました。太陽光で蓄電、稼働し、その周辺の空間放射能を測ります。しかし、放射能の影響を少なく見せるためでしょうか、実際の数値より低い数値が出ていると言われ、私自身は信用していません。それでも、見かけると、その数値を確かめています。なぜなら通常より高めの場合、原発に何かが起き放射能が飛散しているのでは?との意識を持つためです。

しかし、その線量計約2500基が、今、撤去移設の対象になっています。昨年12月半ば、毎日散歩で数値の確認をする線量計がオフになっているのに気がついた男性が、会津若松市役所に問い合わせたところ、市内9箇所の線量計が撤去、避難解除地域へ移転されることが分かりました。オフになっていた線量計はその一つだったのです。撤去の話は聞いていないと、地域住民の強い求めにより1月22日夜、説明会が開かれ、市側の予想を大幅に上回る市民30名が出席しました。撤去理由として、対象の線量計の近くに複数の線量計があるので、それで確認が取れること、設置施設(公園や児童クラブなど)の管理者から、撤去されても不都合はないとの回答があったことなどが挙げされました。しかし、話し合いに臨んだ私たちは、市環境生活課の意識こそが問題だと思いました。参加者の大多数は高齢の男性達。そのおじいちゃん達が口々に、廃炉には30~40年掛かり、それまで何があるか分からぬ、撤去は早すぎると訴えました。



福島原発告訴団長・武藤類子さんも三春町から駆けつけ「線量計は、市民が数値を知る最低限の情報。原子炉には、まだ不安定材料が多い。撤去は早急だ」と発言。しかし、課長は「今後、原発は不測の事態には絶対なりません」と断言。さらに「そもそも、線量計は多すぎると思っていたし、住民に危機意識はなくなっていると思った」と続けました。会場内は「そんなことを言って、万が一の事態に責任が取れるのか!」「原発に事故はないと言っていたのにこんな事態になっているだろう!」「これほどの参加者があるということは、心配している住民がいるという証拠だ!」と、騒然となりました。途中、市側は

再三撤去の受け入れを求めるましたが、住民側は妥協せず。それどころか、課長に、市民の声を真摯に受け止め、県へ撤去中止を申し入れるように叱咤激励し2時間近い説明会は終わりを迎えるました。

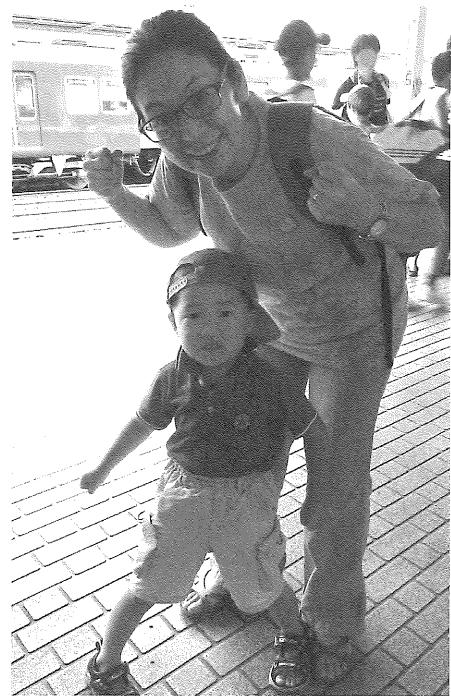
翌週1月28日、前述の男性が環境生活課に出向きその後の対応を確認したところ、県には確かに伝わっており、結果的にはその線量計の撤去は中止となりました。しかし、驚いたことに、他の線量計8台は、26、27日に撤去が完了したこと、告げられました。理由は住民から問い合わせや説明会が求められなかったから。

2月11日福島の地元新聞や毎日新聞に「福島の線量測定大幅減・2500地点の見直し」の記事が載りました。前日10日原子力規制委員会は2017年度から、線量が落ち着いた地域から大幅に減らしていくことを決定し、その通達を受けた県放射線監視室は「住民の大きな反発も想定される。県民が納得できる十分な説明を求めていく」と、話したとの報道です。ということは、正式な通達前に、会津若松市の9箇所を含む県内40箇所が撤去予定となっていたのです。

なぜそうなったのか、理解できない私は、原子力規制委員会に電話をかけました。担当者は「会津若松市へ直接尋ね、回答を得ました。大量の撤去のために、マンパワーと日程の都合で、前倒しで撤去し始めた」と、説明。しかし、住民の意向も聞かず撤去はしないでほしいと伝えると、「規制委員会のレジメにもあるように、地域のニーズを踏まえ（中略）柔軟に対応していく」との答えがありました。

でも、県や国が柔軟な対応を取ると言っても、説明会前に電話した私に環境生活課が断言したように「撤去ありきの説明会」を開き、住民を納得させていくでしょう。こんなことは、原発核事故以降、繰り返し経験させられましたから、予想がつきます。それでも、私は黙っているわけにはいかない、なぜならいつの間にか線量計が撤去されるのは、いつの間にか「私の知る権利」が奪われることだからです。福島県内に住む私たちは、線量計撤去が象徴するように、国が巨大な力を持って、原発核事故は終わっただけでなく、起きなかつたかのような「復興」を目指していると危機感を感じています。その証拠が世代を越えて影響が危ぶまれる福島原発核事故から5年も経たないうちに強行される再稼働です。

私たちの社会は本当に多くの課題に満ちています。しかし、その重荷は私一人で背負うのではない、共に背負ってくださる主イエスがいることを信じて「命どう宝」の社会を作っていくましょう。2012年5月より福島の現状をお伝えする機会を頂きましたこと、感謝致します。日々成長する幼い生命が今日も守られますようにと、心から祈っています。



事務局だより



☆ 理事会報告

日本キリスト教保育所同盟理事会が2月15日（月）雄琴温泉「湯元館」においてもたれました。主な決議事項は以下の通りです。

- 1 本年度事業報告、各地区報告、国際交流事業、バングラデシュの保育を支える会 第18回の旅、山びこ、第三者評価委員会、保育研究会、第56回夏季保育大学、日本キリスト教団宣教部報告、中間決算などの報告事項を承認した。

* 「中堅保育士研修」は、横浜においてキリスト教保育と共に保育園における「平和を考える保育」の実践報告、沖縄における活動など平和についての学びを深めた。「横須賀米軍基地フィールドワーク」も行った。参加者74名。

* 「スキルアップ研修会」は「いのち・人権・平和」を主題に行なわれ、「エピソード記述」についての演習ももたれた。参加者は39名。この研修会は、今後も「いのち・人権・平和」を主題に行う予定である。

* 各地区における「ミッションステートメント」の研修会に森本宮仁子さん（キ保同保育研究会委員・大阪聖和保育園園長）を派遣している。実施希望の地区は、事務局までお申込みください。

- 2 次年度事業計画を承認した。

* 国際交流については、CHCPがホビルバリにおけるプレスクール事業から撤退することからこれまでの関係を解消し、新しいカウンターパートを模索し、バングラデシュにおける子ども支援、スタディツアーを継続する。2016年度をその準備の年とする。

- 3 2016年度仮予算を承認した。

* 地区活動強化のため、上限10万円の地区補助金を予算化した。

- 4 第58回夏季保育大学計画を承認した。

- 5 第59回夏季保育大学は、九州地区が担当する。



☆ 今後の主な予定

* 総 会	2016年5月9日（月）～10日（火）	於：横浜
* 理 事 会	2016年5月9日（月）	於：横浜
	2017年2月13日（月）～14日（火）	於：未定
* 新任研修会	2016年5月18日（水）～20日（金）	於：関西セミナーハウス
* 中堅保育士研修会	2016年11月9日（水）～11日（金）	於：横浜
* 園長研修会	2016年5月10日（火）	於：横浜
	2016年10月17日（月）～18日（火）	於：未定
	2017年2月14日（火）	於：未定
* スキルアップ研修会	2017年1月24日（火）～25日（水）	於：コミュニティ嵯峨野
* 第57回夏季保育大学	（東北地区担当）	
日 時	2016年8月24日（水）～26日（金）	
場 所	松島「一の坊」	

